

女子学生の心理的危機と、それをもたらした養育環境について

その3. 女子学生の心理的危機と、小学生時代の自己充実感・自己達成感との関係について

萩原英敏

(2000年9月27日受理)

【キーワード】女子学生，心理的危機，養育環境，小学生時代，自己充実感

はじめに

著者は「女子学生の心理的危機と、それをもたらした養育環境について、その1. 女子学生の心理的危機と、養育環境の実態」(1999)、「女子学生の心理的危機と、それをもたらした養育環境について、その2. 女子学生の心理的危機と養育環境の関係」(2000)において、多くの女子学生が、心理的危機状態におかれている実態や、その心理的危機が(他者への不信→自己への不信→自我同一性の拡散→不適應状態)という関連で起こること、また、養育環境の中で、小学生の時代の、自己充実感、自己達成感の有無が大きく関係している等を、明らかにした。

そこで今回は最後のところで明らかになった養育環境の中で、小学生時代の自己充実感や自己達成感について、もっと詳しく調べることにした。そこでは、小学生時代に、家庭生活や、学校生活において、どのような生活をしてきたのか、そこでの現代的傾向といわれる生活様式を調べることで、自己充実感や自己達成感を見ようとしたのである。そして、これら小学生時代の項目と、女子学生の心理的危機を示す項目の関連を見たのである。

また、小学生時代の項目の他に、乳幼児期の身体的健康や、親の養育態度が、女子学生の心理的危機と、どう関連するかも見ようとした。

研究方法

1. 実施時期と対象者

時期：2000年4月

対象者：本学児福コース2年生	173名
本学社福コース2年生	85名
本学食物コース1年生	95名
対象者総数	353名

2. 調査方法

女子学生の心理的危機に関する質問、計27項目、養育環境や身体的健康に関する質問、

計17項目、総計44項目からなる質問紙を実施した。(付表1)

なお各下位項目に、含まれる質問項目は、次の通りである。

○女子学生への心理的危機

①他者への信頼 (逆の回答では、他者への不信)

Q30 Q31 Q32 Q33 Q34 Q35 Q36 Q37 Q38 Q39

②自己への信頼 (逆の回答では、自己への不信)

Q40 Q41 Q42 Q43 Q44

③決断力などの自我同一性の確立 (逆の回答では、決断力などない自我同一性の拡散)

Q25 Q26 Q27 Q28 Q29

④不適応状態 (逆の回答では、適応状態)

Q18 Q19 Q20 Q21 Q22 Q23 Q24

○養育環境

①乳幼児期の身体的健康や、養育に関すること

Q1 Q2 Q3 Q4 Q5

②小学生時代の家庭生活

Q6 Q7 Q8 Q9 Q10 Q11 Q12

③小学生時代の学校生活

Q13 Q14 Q15 Q16 Q17

3. 調査の整理法

χ^2 検定 ($P < .01 \dots **$ $P < .05 \dots *$) を用いた。

結果と考察

1. 本学生コース別結果

前回の調査では、コース別に大差は認められなかったが、今回の調査では、コース別に差が認められたので、コース別に結果を示すことにした。 χ^2 検定を実施し、有意差 ($P < .01$ 、 $P < .05$) のあるものを示した。

Q1 あなたは、生まれてから4歳までに、次のいずれかの病気または症状がありましたか？
($P < .05$)

		未熟児または 発育不全	アトピー性 皮膚炎	喘息または 気管支炎	自家中毒	股関節脱臼	無し	全体
児 福 社	N	5	37	13	3	3	120	173
	%	2.9	21.4	7.5	1.7	1.7	69.4	
福 食 物 全 体	N	9	14	11	2	6	53	85
	%	10.6	16.5	12.9	2.4	7.1	62.4	
食 物 全 体	N	7	14	14	—	1	63	95
	%	7.4	14.7	14.7	—	1.1	66.3	
全 体	N	21	65	38	5	10	236	353
	%	5.7	18.4	10.8	1.4	2.8	66.9	

2

全体でみると、アトピー性皮膚炎が18.4% (5人に1人弱) で一番多く、次が喘息または気管支炎で10.8% (10人に1人強) で、上位2つとも、アレルギー性といわれる疾病といわれるものであった。次にコース別にみると、児福コースは、アトピー性皮膚炎が一番多いが、病状が無いという者も一番多かった。一方、社福コースは、未熟児または発育不全、股関節脱臼が一番多く、病状が無いという者も一番少なかった。そしてコース間に有意差が認められた。

Q2 あなたは、生まれてから4歳までに、次のようなことがありましたか？

		叩かれたかまたは他の暴力をうけた	玄関やベランダ等、家の外に出された	押入、物置等に入れられた	他苦痛に思うことがあった	無し	全体
児福	N	19	38	17	12	113	173
	%	11.0	22.0	9.8	6.9	65.3	
社福	N	20	21	11	2	47	85
	%	23.5	24.7	12.9	2.4	55.3	
食物	N	16	18	7	2	64	95
	%	16.8	18.9	7.4	2.1	67.4	
全体	N	55	77	35	16	224	353
	%	15.6	21.8	9.9	4.5	63.5	

全体でみると、玄関やベランダなど、家の外に出されたが、21.8%と一番多く、次が叩かれたかまたは他の暴力をうけたが15.6%見られた。ただ無しが63.5%と、多くの者がこの様な罪はうけていない事がわかった。なおコース別には有意な差は、認められなかった。

Q3 あなたの今までの家庭のしつけは、どのようなものでしたか？

		非常に厳しかった	やや厳しかった	普通	やや緩やかだった	非常に緩やかだった	No. Ans	全体
児福	N	8	43	91	26	4	1	173
	%	4.8	24.9	52.6	15.0	2.3	0.6	
社福	N	5	28	44	6	2	—	85
	%	5.9	32.9	51.8	7.1	2.4	—	
食物	N	5	33	41	9	5	2	95
	%	5.3	34.7	43.2	9.5	5.3	2.1	
全体	N	18	104	176	41	11	3	353
	%	5.1	29.5	49.9	11.6	3.1	0.8	

全体でみると、普通が49.9% (約2人に1人) で一番多く、次がやや厳しかったが、29.5%で、3番目がやや緩やかだったが、11.6%であった。なおコース別には、有意な差は認められなかった。

Q4 あなたの今までの家庭のしつけは、主に誰が行いましたか？

全体でみると、母が67.1%で一番多く、次が、父・母で、16.1%、3番目が父で13.3%と続き、祖母、祖父は2つ合わせても3%にも届いておらず、両親が家庭のしつけの中心で

		母	父	父・母	祖母	祖父	その他	全体
児	N	116	24	29	4	—	—	173
	%	67.1	13.9	16.8	2.3	—	—	
福社	N	58	10	12	2	1	2	85
	%	68.2	11.8	14.1	2.4	1.2	2.4	
食物	N	63	13	16	2	—	1	95
	%	66.3	13.7	16.8	2.1	—	1.1	
全体	N	237	47	57	8	1	3	353
	%	67.1	13.3	16.1	2.3	0.3	0.8	

あることが明らかになった。なおコース別には、有意な差は認められなかった。

Q5-A あなたの生まれてから4歳までの、同居家族は、どのようなものでしたか？

		祖父 (父方)	祖母 (父方)	祖父 (母方)	祖母 (母方)	祖父母 (父方)	祖父母 (母方)	その他	無	全体
児	N	2	13	—	3	28	9	1	117	173
	%	1.2	7.5	—	1.7	16.2	5.2	0.6	67.6	
福社	N	1	10	1	4	12	7	3	47	85
	%	1.2	11.8	1.2	4.7	14.1	8.2	3.5	55.3	
食物	N	1	3	—	1	15	7	1	67	95
	%	1.1	3.2	—	1.1	15.8	7.4	1.1	70.5	
全体	N	4	26	1	8	55	23	5	231	353
	%	1.1	7.4	0.3	2.3	15.6	6.5	1.4	65.4	

全体で見ると、父方の祖父母との同居が、15.6%と一番多く、次が父方の祖母で、7.4%、3番目が、母方の祖父母で、6.5%と続く。また、祖父母などがいない、核家族は65.4%で、約3人に2人は、この家族形態であった。なおコース別には、有意な差は認められなかった。

Q5-B 兄弟姉妹の有無？

		兄1人	弟1人	姉1人	妹1人	きょうだい 多数	無	全体
児	N	28	29	22	26	56	12	173
	%	16.2	16.8	12.7	15.0	32.4	6.9	
福社	N	14	19	12	7	25	8	85
	%	16.5	22.4	14.1	8.2	29.4	9.4	
食物	N	16	10	21	7	33	8	95
	%	16.8	10.5	22.1	7.4	34.7	8.4	
全体	N	58	58	55	40	114	28	353
	%	16.4	16.4	15.6	11.3	32.3	7.9	

全体で見ると、1人以上のきょうだいがいる者(きょうだい多数)が、32.3%と一番多く、次が、兄1人、弟1人で、16.4%、さらに姉1人が15.6%、妹1人が11.3%と続く。

きょうだいのいない1人っ子は、7.9%にすぎなかった。なおコース別には、有意な差は認められなかった。

Q6 母親は何かと忙しく、あまり接する時間がなかったですか？

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児	N	11	124	38	—	173
	%	6.4	71.7	22.0	—	
福社	N	13	52	20	—	85
	%	15.3	61.2	23.5	—	
食物	N	8	72	15	—	95
	%	8.4	75.8	15.8	—	
全体	N	32	248	73	—	353
	%	9.1	70.3	20.7	—	

全体でみると、あまり接する時間がなかった者が9.1%（10人に1人弱）いるが、時間はあったとする者が70.3%いて、多くの者は母親と十分接していたことがわかる。なおコース別には、有意な差は認められなかった。

Q7 父親は何かと忙しく、あまり接する時間がなかったですか？

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児	N	37	82	53	1	173
	%	21.4	47.4	30.6	0.6	
福社	N	28	39	16	2	85
	%	32.9	45.9	18.8	2.4	
食物	N	26	49	20	—	95
	%	27.4	51.6	21.1	—	
全体	N	91	170	89	3	353
	%	25.8	48.2	25.2	0.8	

全体でみると、あまり接する時間がなかった者が25.8%（4人に1人弱）いる。これは母親より父親と、あまり接する時間がなかったことを示すものである。また時間があつたとする者も48.1%（2人に1人弱）しかなかった。なおコース別には、有意な差は認められなかった。

Q8 祖父母は、いようがいまいが、あまり接することがなかったですか？

全体でみると、祖父母とあまり接することがなかった者が、21.2%おり、逆によく接したという者が、その約3倍の60.6%いた。なお、コース別には、有意な差は認められなかった。

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児 福 社	N	35	105	29	4	173
	%	20.2	60.7	16.8	2.3	
福 食	N	20	50	13	2	85
	%	23.5	58.8	15.3	2.4	
物 全 体	N	20	59	16	—	95
	%	21.1	62.1	16.8	—	
全 体	N	75	214	58	6	353
	%	21.2	60.6	16.4	1.7	

Q9 大きくなるにつれ、子供部屋など自分専用の部屋で過ごすことが多く、親とはあまり顔を会わせることがなかったですか？ (P<.05)

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児 福 社	N	14	145	14	—	173
	%	8.1	83.8	8.1	—	
福 食	N	2	66	17	—	85
	%	2.4	77.6	20.0	—	
物 全 体	N	7	78	10	—	95
	%	7.4	82.1	10.5	—	
全 体	N	23	289	41	—	353
	%	6.5	81.9	11.6	—	

全体でみると、親とあまり顔を会わせなかった者が、6.5%で、顔を会わせた者の81.9%に比べて、非常に少ない値であり、孤立化現象は数的には、それ程見られていない。次に、コース別では、社福コースの者が、顔を会わせなかったと答えた者の人数が少なく、どちらともと答えた者の人数が多く、コース間に有意差が認められた。

Q10 家族の会話は表面的なものが多く、深く突っ込んだものは、少なかったですか？

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児 福 社	N	25	102	45	1	173
	%	14.5	59.0	26.0	0.6	
福 食	N	14	50	21	—	85
	%	16.5	58.8	24.7	—	
物 全 体	N	10	56	29	—	95
	%	10.5	58.9	30.5	—	
全 体	N	49	208	95	1	353
	%	13.9	58.9	26.9	0.3	

全体でみると、深く突っ込んだものは少なかったと答えた者が、13.9%いて、深く突っ込んだものと答えた者が、58.9%であった。なお、コース別には、有意な差は認められな

かった。

Q11 母親との関係は、友達みたいなもので、同等に近い立場のものでしたか？

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児	N	58	58	57	—	173
	%	33.5	33.5	32.9	—	
福	N	25	31	29	—	85
	%	29.4	36.5	34.1	—	
食	N	30	31	33	1	95
	%	31.6	32.6	34.7	1.1	
全	N	113	120	119	1	353
	%	32.0	34.0	33.7	0.3	

全体でみると、同等に近い立場と答えた者が、32.0%、同等に近い立場でないと答えた者が34.0%、どちらともと答えた者が33.7%となり、大体3分の1の割合で分布していた。なお、コース別には、有意な差は認められなかった。

Q12 父親との関係は、友達みたいなもので、同等に近い立場のものでしたか？

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児	N	17	108	48	—	173
	%	9.8	62.4	27.7	—	
社	N	13	55	15	2	85
	%	15.3	64.7	17.6	2.4	
食	N	11	58	26	—	95
	%	11.6	61.1	27.4	—	
全	N	41	221	89	—	353
	%	11.6	62.6	25.2	—	

全体でみると、同等に近い立場と答えた者が11.6%で、10名に1名強の割合であり、これを母親と比較すると、約3分の1でしかない。父親は女子学生からは異性である事や、父親として何かと指示するなど上に立つ存在として、認識されていた事などが、このような結果になったものと思われる。当然の結果、同等に近い立場でないと答えた者は、母親の約2倍の62.6%にのぼった。なお、コース別には、有意な差は認められなかった。

Q13 やりたい事は、それなりに最後までやり通せましたか？ (P<.05)

全体でみると、58.4%の者が、最後までやり通せたと答えているが、10.2%の者（10人に1人強）が、やり通せなかったと答えている。次に、コース別にみると、食物コースの者が、他コースの者に比べて、最後までやり通せたと答えた者の数が少なく、有意差が認められた。

		はい	いいえ	どちらとも	NO. ANS.	全体
児 福	N	109	16	48	—	173
	%	63.0	9.2	27.7	—	
社 福	N	55	10	20	—	85
	%	64.7	11.8	23.5	—	
食 物	N	42	10	43	—	95
	%	44.2	10.5	45.3	—	
全 体	N	206	36	111	—	353
	%	58.4	10.2	31.4	—	

Q14 学校での色々な活動の結果に対して、自分では満足なものでしたか？ (P<.05)

		はい	いいえ	どちらとも	NO. ANS.	全体
児 福	N	92	18	63	—	173
	%	53.2	10.4	36.4	—	
社 福	N	40	16	28	1	85
	%	47.1	18.8	32.9	1.2	
食 物	N	34	13	48	—	95
	%	35.8	13.7	50.5	—	
全 体	N	166	47	139	1	353
	%	47.0	13.3	39.4	0.3	

全体で見ると、満足なものであったと答えた者が47.0%（半数弱）で、一方満足なものでなかったと答えた者が、13.3%（10人に1人強）であった。これは前問の、最後までやり通せたかの結果と似ており、やり通せることが、その結果に満足することになると考えられる。次に、コース別にみると、食物コースの者の満足度の低さと、社福コースの者の不満足度の高さが見られ、3コース間に有意差が認められた。

Q15 授業は難しく、ついていくのがなかなか大変でしたか？ (P<.05)

		はい	いいえ	どちらとも	NO. ANS.	全体
児 福	N	23	93	57	—	173
	%	13.3	53.8	32.9	—	
社 福	N	14	45	26	—	85
	%	16.5	52.9	30.6	—	
食 物	N	24	34	37	—	95
	%	25.3	35.8	38.9	—	
全 体	N	61	172	120	—	353
	%	17.3	35.8	38.9	—	

全体で見ると、大変だったと答えた者が、17.3%（6人に1人強）いて、小学生時代に授業の困難さを訴える者の数は、決して少なくない事が明らかになった。特に食物コースの者

は4人に1人の割合で、この困難さを訴えており、他コースとの間には、有意差が認められた。

Q16 仲の良い友達が大勢いて、結構楽しかったですか？

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児 福 社	N	126	7	40	—	173
	%	72.8	4.0	23.1	—	
福 食	N	63	4	17	1	85
	%	74.1	4.7	20.0	1.2	
物 全 体	N	72	4	19	—	95
	%	75.8	4.2	20.0	—	
全 体	N	261	15	76	1	353
	%	73.9	4.2	21.5	0.3	

全体で見ると、結構楽しかったと答えた者が73.9%で、大多数の者が楽しかったと思っている。ただ4.2%の者が、楽しくなかったと答えている。なお、コース別には、有意な差は認められなかった。

Q17 おけいこ事や塾などで忙しく、十分遊ぶ時間がとれず、もっと遊べたらいいなあと、思ったことがありますか？

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児 福 社	N	22	129	22	—	173
	%	12.7	74.6	12.7	—	
福 食	N	12	64	9	—	85
	%	14.1	75.3	10.6	—	
物 全 体	N	19	62	14	—	95
	%	20.2	65.3	14.7	—	
全 体	N	53	255	45	—	353
	%	15.0	72.2	12.7	—	

全体で見ると、もっと遊べたらいいなあとと思った者が、15.0%（20人に3人）おり、おけいこ事や塾への多忙さを訴えている。一方十分遊べたという者が72.2%おり、大多数の者は、満足している。なお、コース別には、有意な差は認められなかった。

Q18 あなたは、元気で、身体の何処も痛む事はありませんか？

全体で見ると、身体の何処も痛まないと答えた者が、63.5%いるのに、身体の何処かが痛むと答えた者が21.2%（5人に1人強）いた。この痛むと答えた者の数は、見すごせないものである。なお、コース別には、有意な差は認められなかった。

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児 福	N	105	40	28	—	173
	%	60.7	23.1	16.2	—	
社 福	N	49	20	16	—	85
	%	57.6	23.5	18.8	—	
食 物	N	70	15	10	—	95
	%	73.7	15.8	10.5	—	
全 体	N	224	75	54	—	353
	%	63.5	21.2	15.3	—	

Q19 あなたは、すぐ感情を傷つけられやすいですか？

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児 福	N	70	33	69	1	173
	%	40.5	19.1	39.9	0.6	
社 福	N	34	17	34	—	85
	%	40.0	20.0	40.0	—	
食 物	N	55	15	25	—	95
	%	57.9	15.8	26.3	—	
全 体	N	159	65	128	1	353
	%	48.0	18.4	36.3	0.3	

全体で見ると、すぐ感情を傷つけられやすいと答えた者が45.0%（半数弱）おり、微妙なことでもすぐ感情が傷つきやすい青年期女性の姿が見られた。一方、18.4%の者が、すぐは感情が傷つかないと答えている。なお、コース別には、有意な差は認められなかった。

Q20 あなたは、食欲があり、何を食べてもおいしく感じますか？

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児 福	N	137	9	27	—	173
	%	79.2	5.2	15.6	—	
社 福	N	63	5	17	—	85
	%	74.1	5.9	20.0	—	
食 物	N	69	7	19	—	95
	%	72.6	7.4	20.0	—	
全 体	N	269	21	63	—	353
	%	76.2	5.9	17.8	—	

全体で見ると、食欲があり、何を食べてもおいしいと答えた者が、76.2%おり、大多数を占めた。一方、食欲が無く、何を食べてもおいしくないと答えた者が、5.9%（20人に1人強）いた。なお、コース別には、有意な差は認められなかった。

Q21 あなたは、何かにつけ、よく心配する方ですか？

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児 福 社	N	116	18	39	—	173
	%	67.1	10.4	22.5	—	
福 食	N	54	11	20	—	85
	%	63.5	12.9	23.5	—	
物 全	N	75	7	13	—	95
	%	78.9	7.4	13.7	—	
体	N	245	36	72	—	353
	%	69.4	10.2	20.4	—	

全体でみると、よく心配する方と答えた者が、69.4%を占め、青年期の不安な状況を反映したものとなった。たが一方で、心配する方ではないと答えた者が、10.2%（10人に1強）いた。なお、コース別には、有意な差は認められなかった。

Q22 あなたは、怖い夢で目をさます事がありますか？

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児 福 社	N	53	88	32	—	173
	%	30.6	50.9	18.5	—	
福 食	N	28	46	11	—	85
	%	32.9	54.1	12.9	—	
物 全	N	41	34	20	—	95
	%	43.2	35.8	21.1	—	
体	N	122	168	63	—	353
	%	34.6	47.6	17.8	—	

全体でみると、怖い夢で目をさます事があると答えた者が、34.6%（3人に1人強）いるが、反対に目をさます事はないと答えた者が、47.6%（半数弱）いる。なお、コース別には、有意な差は認められなかった。

Q23 あなたは、学校生活が楽しく、結構毎日元気で、登校していますか？（ $P < .01$ ）

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児 福 社	N	109	2	61	1	173
	%	63.0	1.2	35.3	0.6	
福 食	N	48	6	31	—	85
	%	56.5	7.1	36.5	—	
物 全	N	47	12	36	—	95
	%	49.5	12.6	37.9	—	
体	N	204	20	128	1	353
	%	57.8	5.7	36.3	0.3	

全体でみると、元気で登校していると答えた者が、57.8%（半数強）で、元気で登校していないと答えた者が、その10分の1の5.7%（20人に1人強）いた。これをコース別にみると、児福コース→社福コース→食物コースの順で、元気で、登校している事がわかり、コース間に有意差が認められた。このような差は児福、社福両コースが2年生、食物コースが1年生という差からきたものと考えられる。しかし新学期の最初の日の状態であるという事を考えれば、食物コースの者の、就学への動機の問題や、その動機と現実にくらかのギャップがあった為だとも考えられる。

Q24 あなたは、外で人から見られると、気になる方ですか？

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児福	N	106	30	37	—	173
	%	61.3	17.3	21.4	—	
社福	N	56	10	19	—	85
	%	65.9	11.8	22.4	—	
食物	N	70	9	16	—	95
	%	73.7	9.5	16.8	—	
全体	N	232	49	72	—	353
	%	65.7	13.9	20.4	—	

全体でみると、外で人から見られると、気になる方と答えた者が、65.7%（3人に2人弱）いる。これも、他人の目を気にする、青年期特有の心理が出たものと考えられる。一方、気になる方ではないと答えた者が13.9%いた。なお、コース別には、有意な差は認められなかった。

Q25 あなたは、他人から、仲間外れにされていると、感じる事がありますか？

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児福	N	23	113	37	—	173
	%	13.3	65.3	21.4	—	
社福	N	16	45	23	1	85
	%	18.8	52.9	27.1	1.2	
食物	N	22	50	23	—	95
	%	23.2	52.6	24.2	—	
全体	N	61	208	83	1	353
	%	17.3	58.9	23.5	0.3	

全体でみると、他人から仲間外れにされていると感じると答えた者が、17.3%で、その3倍強で58.9%の者が、仲間外れにされているとは感じないと答えている。なお、コース別には、有意な差は認められなかった。

Q26 あなたは、将来は、どの様な職業にもつけそうという、強い自信を、持っていますか？

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児 福 社	N	25	89	59	—	173
	%	14.5	51.4	34.1	—	
社 福 食	N	12	45	28	—	85
	%	14.1	52.9	32.9	—	
物 全 体	N	9	53	33	—	95
	%	9.5	55.8	34.7	—	
全 体	N	46	187	120	—	353
	%	13.0	53.0	34.0	—	

全体でみると、どの様な職業にもつけそうという強い自信を持っていると答えた者が、13.0%（8人に1人強）で、半数以上の53.0%の者が、強い自信を持っていないと答えた。なお、コース別には、有意な差は認められなかった。

Q27 あなたは、今、何かからも拘束されずに、自由であると、感じる事がありますか？
($P < .05$)

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児 福 社	N	52	61	60	—	173
	%	30.1	35.3	34.7	—	
社 福 食	N	17	49	19	—	85
	%	20.0	57.6	22.4	—	
物 全 体	N	28	41	26	—	95
	%	29.5	43.2	27.4	—	
全 体	N	97	151	105	—	353
	%	27.5	42.8	29.7	—	

全体でみると、自由であると感じていると答えた者が、27.5%（4人に1人強）いるが、自由であると感じていないと答えた者が、半数に近い42.8%もいて、可成の者が拘束感を持っている事がわかる。また、コース別では、社福コースの者の中に、拘束感を持っている人が多く、コース間に有意差が認められた。

Q28 あなたは、今、理想の自分が沢山あって、どれが本当になりたい自分なのか、さっぱりわからない状態ですか？

全体でみると、どれが本当になりたい自分なのか、わからない状態だと答えた者が、29.5%（10人に3人弱）で、反対に、本当になりたい自分が、わかっていると答えた者は、3分の1以上の35.4%にのぼった。なお、コース別には、有意な差は認められなかった。

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児 福 社	N	53	68	52	—	173
	%	30.6	39.3	30.1	—	
福 食	N	19	29	37	—	85
	%	22.4	34.1	43.5	—	
物 全 体	N	32	28	35	—	95
	%	33.7	29.5	36.8	—	
全 体	N	104	125	124	—	353
	%	29.5	35.4	35.1	—	

Q29 あなたは、他人といっしょにいて、たまらなく自分が嫌になる事がありますか？

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児 福 社	N	55	58	59	1	173
	%	31.8	33.5	34.1	0.6	
福 食	N	37	28	20	—	85
	%	43.5	32.9	23.5	—	
物 全 体	N	41	29	25	—	95
	%	43.2	30.5	26.3	—	
全 体	N	133	115	104	1	353
	%	37.7	32.6	29.5	0.3	

全体でみると、他人といっしょにいて、たまらなく自分が嫌になると答えた者が、37.7%で、そうでないと答えた者の32.6%より5%強多くなっている。これも青年期の自己意識の強さと自我同一性の拡散状態を、反映したものであろう。なお、コース別には、有意な差は認められなかった。

Q30 あなたは、一般的に、人間は信頼できるものだと、思いますか？ (P<.01)

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児 福 社	N	103	11	59	—	173
	%	59.5	6.4	34.1	—	
福 食	N	40	10	35	—	85
	%	47.1	11.8	41.2	—	
物 全 体	N	24	16	55	—	95
	%	25.3	16.8	57.9	—	
全 体	N	167	37	149	—	353
	%	47.3	10.5	42.2	—	

全体でみると、人間は信頼できると答えた者が、47.3% (半数弱)、一方、信頼できないと答えた者が、10.5% (10人に1人強)であった。また、コース別でみると、食物コースの者が、他のコースの者に比べて、人間は信頼できる者と答えた数が少なく、コース間で有

意差が認められた。

Q31 あなたは、自分の事は自分でしっかり守っていないと、壊れそうな気がしますか？

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児 福	N	55	67	51	—	173
	%	31.8	38.7	29.5	—	
社 福	N	36	25	23	1	85
	%	42.4	29.4	27.1	1.2	
食 物	N	29	28	38	—	95
	%	30.5	29.5	40.0	—	
全 体	N	120	120	112	1	353
	%	34.0	34.0	31.7	0.3	

全体で見ると、壊れそうな気がすると、逆に気がしないが、双方とも34.0% (3人に1人強)であった。なお、コース別には、有意な差は認められなかった。

Q32 あなたは、今は何でも話せても、他人は所詮全く当てにならないものであると、思いますか？ (P<.05)

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児 福	N	11	118	44	—	173
	%	6.4	68.2	25.4	—	
社 福	N	8	57	20	—	85
	%	9.4	67.1	23.5	—	
食 物	N	9	48	38	—	95
	%	9.5	50.5	40.0	—	
全 体	N	28	223	102	—	353
	%	7.9	63.2	28.9	—	

全体で見ると、全く当てにならないものと答えた者が、7.9%で、逆に当てになると答えた者は、63.2%で、約8倍多かった。大多数の者が、当てになると思っている結果である。また、コース別には、児福コースの者の中で、全く当てにならないと答えた者が少なく、コース間に有意差が認められた。

Q33 あなたは、これまで出会った人は、よくしてくれたと、思いますか？

全体で見ると、よくしてくれたと答えた者が、81.0%で、反対のよくしてくれなかったと答えた者の、0.8に比べて、約100倍の数に達した。多くの者が、よくしてくれたと思っている。なお、コース別には、有意な差は認められなかった。

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児 福	N	148	—	25	—	173
	%	85.5	—	14.5	—	
社 福	N	66	2	17	—	85
	%	77.6	2.4	20.0	—	
食 物	N	72	1	22	—	95
	%	75.8	1.1	23.2	—	
全 体	N	286	3	64	—	353
	%	81.0	0.8	18.1	—	

Q34 あなたは、現在、信頼できる特定のひとがいますか？

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児 福	N	149	7	17	—	173
	%	86.1	4.0	9.8	—	
社 福	N	73	5	6	1	85
	%	85.9	5.9	7.1	1.2	
食 物	N	82	2	11	—	95
	%	86.3	2.1	11.6	—	
全 体	N	304	14	34	1	353
	%	86.1	4.0	9.6	0.3	

全体でみると、特定のひとがいると答えた者が、86.1%で、反対に、いないと答えた者は4.0%であった。多くの者が、特定のひとがいるという事を示す結果である。なお、コース別には、有意な差は認められなかった。

Q35 あなたは、なぜか他人にたいして、うたがいが深くなっていますか？ (P<.05)

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児 福	N	37	89	47	—	173
	%	21.4	51.4	27.2	—	
社 福	N	25	35	25	—	85
	%	29.4	41.2	29.4	—	
食 物	N	25	30	40	—	95
	%	26.3	31.6	42.1	—	
全 体	N	87	154	112	—	353
	%	24.6	43.6	31.7	—	

全体でみると、うたがいが深くなっていると答えた者が、24.6% (4人の1人弱) で、43.6%の者は、うたがいが深くないと答えている。また、コース別では、社福コースの者が、うたがいが深くなっていると答えた人数が多く、食物コースの者が、うたがいが深くないと答えた人数が少ない為、コース間で有意差が認められた。

Q36 あなたは、相手が自分を大切にしてくれるのは、そうする事が相手にとって利益があるからだ、と思いますか？ (P<.05)

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児 福 社	N	7	125	41	—	173
	%	4.0	72.3	23.7	—	
福 食	N	4	52	29	—	85
	%	4.7	61.2	34.1	—	
物 全	N	12	57	26	—	95
	%	12.6	60.0	27.4	—	
体	N	23	234	96	—	353
	%	6.5	66.3	27.2	—	

全体でみると、そうする事が相手にとって利益があると思っていると答えた者は、6.5%にすぎず、その反対の、相手にとって利益があるとは思っていないと答えた者は、その約10倍の66.3%にのぼる。また、コース別では、食物コースの者が、他コースの者に比べて、相手にとって利益があると思っている者の数が多く、コース間に有意差が認められた。

Q37 あなたは、周りのほとんどのひとは、私を信頼しているだろうと、と思いますか？ (P<.05)

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児 福 社	N	41	25	107	—	173
	%	23.7	14.5	61.8	—	
福 食	N	19	14	52	—	85
	%	22.4	16.5	61.2	—	
物 全	N	12	28	55	—	95
	%	12.6	29.5	57.9	—	
体	N	72	67	214	—	353
	%	20.4	19.0	60.6	—	

全体でみると、私を信頼しているだろうと思っている者は、20.4% (5人に1人強)で、反対に、信頼していないだろうと思っている者は、それより少し少ない、19.0% (5人に1人弱)であり、あまり差は無かった。また、コース別では、食物コースの者が、他コースに比べて、信頼しているだろうと答える者の数が少なく、コース間に有意差が認められた。

Q38 あなたは、無理をしなくても、この先の人生でも、信頼できるひとに出会えるだろうと、と思いますか？ (P<.05)

全体でみると、信頼できるひとに出会えるだろうと答えた者が、69.4% (10人に7人弱)いて、反対の、出会えないだろうと答えた者6.2%の、10倍以上に達しており、多くの者が、信頼できるひとに出会えると思っている。また、コース別では、食物コースの者が、他コースに比べて、信頼できるひとに出会えるだろうと思っている者の数が少なく、コース間に有意差が認められた。

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児 福	N	130	7	36	—	173
	%	75.1	4.0	20.8	—	
社 福	N	60	3	22	—	85
	%	70.6	3.5	25.9	—	
食 物	N	55	12	28	—	95
	%	57.9	12.6	29.5	—	
全 体	N	245	22	86	—	353
	%	69.4	6.2	24.4	—	

Q39 あなたは、過去に、誰かに裏切られたり、だまされたりで、他人を信じる事が、怖くなっていますか？

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児 福	N	40	82	50	1	173
	%	23.1	47.4	28.9	0.6	
社 福	N	18	31	33	3	85
	%	21.2	36.5	38.8	3.5	
食 物	N	29	33	27	6	95
	%	30.5	34.7	28.4	6.3	
全 体	N	87	146	110	10	353
	%	24.6	41.4	31.2	2.8	

全体で見ると、他人を信じる事が怖くなっていると答えた者が、24.6%（4人に1人弱）いた。一方、他人を信じる事が怖くないと答えた者は、41.4%とそれより可成多くなっている。なお、コース別には、有意な差は認められなかった。

Q40 あんたは、自分の人生に対して、何とかやっていけそうな気がしていますか？

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児 福	N	129	9	34	1	173
	%	74.6	5.2	19.7	0.6	
社 福	N	59	4	20	2	85
	%	69.4	4.7	23.5	2.4	
食 物	N	62	6	21	6	95
	%	65.3	6.3	22.1	6.3	
全 体	N	250	19	75	9	353
	%	70.8	5.4	21.2	2.5	

全体で見ると、何とかやっていけそうな気がする者と答えた者が、70.8%（10人に7人強）いて、何とかやっていけそうな気がしないと答えた5.4%（20人に1人強）の者に比べて、大多数にのぼった。なお、コース別には、有意な差は認められなかった。

Q41 あなたは、自分自身を信頼に値する人間だと、思いますか？

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児 福 社	N	51	22	98	2	173
	%	29.5	12.7	56.6	1.2	
福 食 物	N	22	15	44	4	85
	%	25.9	17.6	51.8	4.7	
全 体	N	18	14	57	6	93
	%	18.9	14.7	60.0	6.3	
全 体	N	91	51	199	12	353
	%	25.8	14.4	56.4	3.4	

全体でみると、自分自身を信頼に値する人間だと答えている者は、25.8%（4人に1人強）いて、反対の信頼に値しない人間だと答えている14.4%の者より多かった。なお、コース別には、有意な差は認められなかった。

Q42 あなたは、自分自身の講堂を、ある程度コントロールできると、確信できますか？

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児 福 社	N	133	5	34	1	173
	%	76.9	2.9	19.7	0.6	
福 食 物	N	59	6	18	2	85
	%	69.4	7.1	21.2	2.4	
全 体	N	63	6	20	6	95
	%	66.3	6.3	21.1	6.3	
全 体	N	255	17	72	9	353
	%	72.2	4.8	20.4	2.5	

全体でみると、ある程度コントロールできると確信できると答えた者が、72.2%（10人に7人強）で、反対に、確信できないと答えた者の4.8%（20人に1人弱）より、大多数をしめた。なお、コース別には、有意な差は認められなかった。

Q43 あなたは、今は実現していなくても、いつかは実現するだろうと、信じる事が多いですか？

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児 福 社	N	107	17	48	1	173
	%	61.8	9.8	27.7	0.6	
福 食 物	N	55	4	23	3	85
	%	64.7	4.7	27.1	3.5	
全 体	N	55	10	24	6	95
	%	57.9	10.5	25.3	6.3	
全 体	N	217	31	95	10	353
	%	61.8	8.8	26.9	2.8	

全体で見ると、いつかは実現するだろうと信じる事が多いと答えた者が61.5% (10人に6人強) いて、それとは反対の、信じる事は少ないとこたえた8.8%のものの7倍の多さだった。なお、コース別には、有意な差は認められなかった。

Q44 あんたは、自分は自分で、決して他人にとって、代わることの出来ない存在であると、思いますか？

		はい	いいえ	どちらとも	NO.ANS.	全体
児 福	N	113	17	42	1	173
	%	65.3	9.8	24.3	0.6	
社 福	N	47	9	27	2	85
	%	55.3	10.6	31.8	2.4	
食 物	N	49	7	33	6	95
	%	51.6	7.4	34.7	6.3	
全 体	N	209	33	102	9	353
	%	59.2	9.3	28.9	2.5	

全体で見ると、自分は自分で、決して他人にとって、代われない存在と答えた者が、59.2% (10人に6人強) であった。一方反対に代わられる存在と答えた者は、9.3% (10人に1人強) で、その数は少なかった。なお、コース別には、有意な差は認められなかった。

以上、本学生のコース別結果であるが、コース別で差が認められたものは、(イ) 学校での生活の項目 (Q13 Q14 Q15) と、(ロ) 他者への信頼の項目 (Q30 Q32 Q35 Q36 Q37 Q38) に、多くみられた。この両項目に、食物コースと他の2コース間、食物コース、社福コースと児福コース間に差があった。

2.小学生時代の自己充実感や自己達成感と、女子学生の心理的危機

本研究の一番の目的である、小学生時代の養育環境の中での、自己充実感や自己達成感と、女子学生の心理的危機の関連を次にみた。小学生時代の養育環境は、家庭生活7項目、学校生活5項目について、それぞれ関係をみた。また、女子学生の心理的危機は、①他者への不信 ②自己への不信 ③決断力などの自我同一性の拡散 ④不適応状態、の4つに項目を分類し、関係をみたのである。なお、 χ^2 検定を用い、 $P < .01$ には**、 $P < .05$ には*で示した。

(1) 家庭生活

Q6 母親との接触時間

20

	他者への不信	自己への不信	自我同一性の拡散	不適応状態
少ない	Q32* Q33* Q35* Q39**			Q18** Q23**

母との接触時間が少ないと、青年期になって、他者への不信感が強く、不適応状態になりやすい事がわかった。今日の日本では、一般的に子どもが小学生になると、母親は安心し、パート職など勤務するようになる傾向にあるが、これで接触時間が極端に少なくなるよう

あれば、それが青年期の心理的危機状態を生む可能性がある事を、示唆した結果である。特にQ 39で、過去に、誰かに裏切られたという他者への不信感が育っている事や、Q 18, Q 23が不登校によくみられる不適応状態である事を考えてみると、母親との接触の少なさ、すなわち母子分離不安が、不登校の原因とされるのも、この結果からうなずく事ができる。

Q7 父親との接触時間

	他者への不信	自己への不信	自我同一性の拡散	不適応状態
少ない	Q18** Q30* Q33** Q35* Q37** Q39**			Q18**

父との接触時間が少ないと、青年期になって、他者への不信頼が特に強くなり、不適応状態になりやすい事がわかった。特に他者への不信の項目で、10項目中6項目有意差が出ており、小学生時代の父親との接触の少なさは、青年期の他者不信の土壌をつくっているとも考えられる。一般的に小学生になり、子どもも仲間との関係が重要視される。また父親も異性である娘とのつき合い方の困難さと、年齢的に仕事に時間をさかれるという時代なので、つい父との接触時間も少なくなる傾向にある。しかし子どもは父親ともっと接したがっているものであり、その事実を見逃してはならない。以上、前項の母親と同様、父親の接触時間も、それが少ないと問題なのであり、親子関係はその質だけ問題するのではなく、絶対的な量を確保する必要がある。

Q8 祖父母との接触

	他者への不信	自己への不信	自我同一性の拡散	不適応状態
有り				Q22**
無し	Q33*			

祖父母との接触の有無は、有りで、Q 22の怖い夢で目をさますという不適応状態と、無しで、Q33の他者への不信が1つずつみられただけで、それほどの関係は見出せなかった。この事から、祖父母との接触の有無が、青年期の心理的危機状態とは、さほど関係が無い事がわかった。

Q9 子ども部屋ですごす事が多く、親とは顔を合わせない。

	他者への不信	自己への不信	自我同一性の拡散	不適応状態
親と顔を合わせない	Q38* Q39**			Q23**
親と顔を合わせる			Q26*	

大きくなるにつれ、子供部屋など自分専用の部屋ですごすことが多く、親とはあまり顔を合わせなかった者は、青年期になると、他者への不信感が強く、不登校のような不適応を呈する可能性があるという事、一方、将来、どの様な職業にもつけるという自我同一性の確立を促進する可能性がある事などが明らかになった。この結果は、親と接触時間が少ない結果と似ており、子供部屋ですごすから接触が少なくなったのか、その逆で接触が少ないから子供部屋ですごす様になったのかわからないが、親子の接触を少なくする子供部屋の存在は、青年期の心理的危機状態を生む可能性があり、子供部屋を与える上で、親子の接触が十分なされる様、配慮されるべきである。

Q10 家族の会話は表面的なものか、深く突っ込んだものか

	他者への不信	自己への不信	自我同一性の拡散	不適応状態
表面的なもの	Q30* Q32** Q35*	Q43*	Q29**	Q19*

家族の会話が表面的なものが多い場合と、青年期の心理的危機のすべての下位項目に関係が認められた。この事は、小学生時代の家族の会話が、突っ込んだものでなく、表面的なものであれば、青年期に他者への不信感を含め、心理的危機状態が生じる可能性を示したものである。

Q11 母親との関係は、友達みたいなもので、同等に近いものであったか

	他者への不信	自己への不信	自我同一性の拡散	不適応状態
同等に近い				Q19** Q20* Q22*
同等でない	Q34*			

母親との関係が、友達みたいに同等に近い場合、青年期になると、不適応状態を呈する事になる危険性がある。やはり小学生時代は、しっかりした頼りがいのある母親、子どものモデルとなる母親を必要としているのであり、いわゆる子どもと同等な、ものわりのよい親は、子どもにとって不安の親に見えるようだ。ただ同等の親は、他者への信頼には一役かっているようだ。

Q12 父親との関係は、友達みたいなもので、同等に近いものであったか

	他者への不信	自己への不信	自我同一性の拡散	不適応状態
同等に近い	Q31* Q37*			
同等でない	Q30*		Q26*	

父親との関係が、友達みたいに同等に近くない場合は、青年期に、自我同一性の拡散状態になりやすいという結果が1つの項目で出た。ただ他者への不信では、同等に近い、近くないの双方で関係が出ており、これら結果から、はっきりした結論は出せない。これらの事から、母親と子ども、父親と子どもの関係は、同じものでなく、それぞれの性が持っている特性を生かした関係をつくるべきである。

(2) 学校生活

Q13 やりたい事は、最後までやり通せたか

	他者への不信	自己への不信	自我同一性の拡散	不適応状態
やり通せなかった	Q30** Q31** Q33*	Q40** Q41** Q42*	Q26** Q29*	Q19** Q21* Q23**

22

小学生の学校生活で、やりたい事を、最後までやり通せなかった者は、青年期の心理的危機のすべての下位項目で、危機的状态を示す結果となっている。この事は、小学生時代の自己充実感、自己達成感が、その後の人生に影響を与え、もしこれらを獲得せずに青年期まで成長すれば、心理的危機状態に陥る事を示唆した結果であると言えよう。小学生時代、子どもがあまり主体的な、やりたいものをさせてもらえず、しかも、何らかの理由で途中でやめ

てしまって、最後までやり通す事の少ない今日、青年期に心理的危機状態を呈する者が多く出現するのは、この結果からみると仕方がない。早くこの状態から脱する為には、子どもたちに主体的な活動を認め、十分な時間と空間を保障してあげる事である。

Q14 学校での活動の結果は、自分で満足なものであったか

	他者への不信	自己への不信	自我同一性の拡散	不適応状態
不満なもの	Q30* Q32** Q33** Q34* Q37** Q38*	Q40** Q41** Q42** Q43* Q44*	Q25* Q26* Q29**	Q19* Q21* Q23**

小学生時代の学校での活動の結果が、不満な者は、青年期の心理的危機のすべての下位項目で、危機的状态を示す事になった。特に自己への不信は、すべての項目で関係がみられ、この時期の活動の結果は、自己を信じられるものとみるか、また信じられないものとみるか、を決定する重要な要因であるとみる事が出来る。小学生時代の活動の結果が、青年期の心理的危機と関係している事実から、小学生時代の活動において、多くの子ども達に不満足を持たせない指導が望まれるのである。

Q15 授業が難しく、ついていくのが大変だった

	他者への不信	自己への不信	自我同一性の拡散	不適応状態
大変である	Q37**		Q26**	Q19* Q22*

授業が難しく、ついていくのが大変だった者は、自己への不信を除いた、他の下位項目で、青年期の心理的危機状態を示す結果となった。ただ授業の困難性が青年期の心理的危機と関係する事はわかったが、Q13, Q14の自己充実感、自己達成感の獲得ほどの関連性は認められず、授業の困難さより、それに立ち向かったが満足なものが獲得できなかったり、最後までやり通せなかった結果が、青年期の心理的危機と、より関係している事が明らかになった。

Q16 仲の良い友達が大勢いて、楽しかったか

	他者への不信	自己への不信	自我同一性の拡散	不適応状態
楽しくなかった	Q30* Q33** Q34** Q35** Q37** Q38** Q39*	Q41** Q42** Q43*	Q25** Q29**	Q23**

小学生時代に、仲の良い友達があまりいなく、楽しくなかったとした者は、青年期において、全下位項目において、心理的危機状態を示す結果となった。特に他者への不信感が、友達関係の不調によって、この時期に確定される事を示唆する結果である。この事から小学生のこの時期、大勢の、仲の良い友達をつくる事が、青年期の心理的危機状態を生じさせない事になると言えるのである。

Q17 おけいこ事や塾などで忙しく、もっと遊べたらと思う

小学生時代、おけいこ事や塾などで忙しく、十分遊べなかったと思っている者が、青年期になり、特に自我同一性の拡散を中心に、心理的危機の状態を示している。この時期に他者

	他者への不信	自己への不信	自我同一性の拡散	不適応状態
もっと遊べたらと思う	Q30*		Q25* Q26** Q27** Q28**	Q19* Q24**

からある意味で強制的に指導された結果、青年期に、自分がどんな人間かをつかめない、自我同一性の拡散状態になってしまっている様だ。小学生の時期からのおけいこ事や塾通いは、今日益々盛んになりつつあるが、これが青年期の自我同一性の確立（アイデンティティの確立）を遠ざけ、フリーター志向を増大させている事に、注意を向ける必要があるようだ。

以上、小学生時代の養育環境について、家庭と学校で、現代的傾向と言われている項目を中心に、自己充実感や自己達成感を明らかにし、それと青年期の心理的危機の関連を調べてきた。その結果、家庭生活では、両親がいそがしく、子どもと接する時間が少なく、子どもは自分専用の部屋ですごす事が多く、家庭の会話も表面的なものが多く、母親は子どもと友達みたいな、同等な立場で接する、など子どもと親との関係が希薄と考えられる場合に、青年期に、心理的危機状態を呈する事が明らかになった。この事から、小学生の時でも親は子供と密な関係を持ち、心の支えになる必要があると言えるのである。また学校生活では、やりたい事を、最後までやり通せず、学校での活動結果に不満足で、授業になかなかついて行けず、仲の良い友達はその多くなく、おけいこ事や塾など忙しく、もっと遊びたいと思っているなど、自己充実感や自己達成感などを獲得出来なかった場合に、青年期に、心理的危機状態を呈する事が明らかになった。この事から、小学生の時でも、やりたい自主的なものを十分やらせ、満足な結果を出させ、仲の良い友達と十分遊ばせる事が必要であると言えるのである。だが残念な事に、世の中の流れは、家庭生活でも、学校生活でも、小学生時代に必要とされるものが、次第に失われつつある。この必要な面を再認識し、子どもに確保してあげる事が、青年期の心理的危機の予防になると考える。

3. 乳幼児期の身体的健康や養育と、女子学生の心理的危機

次に乳幼児期の身体的健康や養育と、女子学生の心理的危機の関係をみた。

Q1 生まれてから4歳までの、病気または症状

この項目は、心理的危機の項目と、全然関係を見出せなかった。

Q2 生まれてから4歳までに、体験したこと

	他者への不信	自己への不信	自我同一性の拡散	不適応状態
叩かれたか、または他の暴力を受けた				Q18* Q22*
玄関やベランダ等、家の外に出された				Q18*
押入れ、物置等に入れられた				Q22*

躰として体験したものの中で、叩かれた等が、不適応状態2項目と、玄関等外に出された、

押入れ等入れられたが、不適応状態1項目と関係を見いだした。しかし、他の心理的危機の下位項目とは、関係がなく、この時期の体験は、それ程、青年期まで影響しない事が明らかになった。

Q3 家庭でのしつけの厳しさの程度

	他者への不信	自己への不信	自我同一性の拡散	不適応状態
非常に厳しかった	Q39**	Q43*		
非常に緩かった		Q43*		Q23*

家庭でのしつけの厳しさと、心理的危機との関係では、非常に厳しかった、非常に緩やかだったといった、極端なしつけが、いくつかの心理的危機の項目と関係がある事が明らかになった。だが、関係する項目の数は少なく、しつけの厳しさは、それ程、青年期の心理的危機と関係しない事がわかった。

Q4 家庭のしつけは、主に誰が行ったか

	他者への不信	自己への不信	自我同一性の拡散	不適応状態
祖母			Q25*	

しつけを、主に誰が行ったかについて、祖母と、自我同一性の拡散の1項目に、関係が見出されたが、青年期の心理的危機と、ほとんど関係が無い事が明らかになった。

以上、乳幼児期の身体的健康や養育と、女子学生の心理的危機の関係をみてきたが、この時期は、記憶も定かでない事もあると思うが、前述の小学生時代と比べて、あまり青年期の心理的危機とは関係がない事がわかってきた。今日、青年期の心理的危機から派生すると思われる。種々の事件に対して、家庭でのしつけなどが問題とされているが、以上の結果から考えられる事は、しつけの厳しさより、親と子が接触を多くし、親の支えのもと、子どもが安心して物事に取組み、自己充実感や自己達成感を獲得させてあげる事が重要だと思われる。

4. 養育環境項目間の関係

Q2とQ3には、 $P < .01$ の有意差が見出された。叩かれたや、玄関やベランダなど外に出されたが、やや厳しかったと、他苦痛がやや緩やかだったと、関係があった。

Q2とQ7には、押入れ等に入れられたと、父親は何かと忙がしく、あまり接する時間がなかったと、関係があった。

Q3とQ4には、 $P < .01$ の有意差が見出された。普通、やや緩やかがしつけの主が母親と、非常に厳しい、やや厳しいがしつけの主が父親と、関係があった。

Q4とQ7には、 $P < .05$ の有意差が見出された。母親および祖母がしつけの主の場合、父親は何かと忙しく、あまり接する時間がなかったになっていた。

Q4とQ16には、 $P < .05$ の有意差が見出された。母親および両親がしつけの主の場合、仲の良い友達が勢いて、楽しかったに、関係があった。

Q5とQ10には、 $P < .01$ の有意差が見出された。母方の祖母の同居や、核家族の場合は、家族の会話が、深く突っこんだものになっているが、父方の祖母、祖父母の同居の場合は、

家族の会話は、表面的のものが多くなっていた。この結果から、父方の祖父母や祖母の同居の場合、家族全体が本音を出せず、遠慮がちに生活している姿が見えてくる。

Q6とQ7には、 $P < .01$ の有意差が見出された。母親が忙しく、あまり接する時間がない時、父親も同じように忙しく、あまり接する時間がないという事である。この様に片方が忙しい時、もう一方が忙しくなければ、子どもは寂しさをまぎらわす事が出来るのだが、双方とも忙しく、子どもの寂しさを理解していない親の存在が明らかになってきた。

Q6とQ9には、 $P < .05$ の有意差が見出された。母親が忙しく、あまり接する時間がないと、子どもは、自分専用の部屋ですごす事が多くなるという関係が明らかになった。

Q6とQ10には、 $P < .05$ の有意差が見出された。あまり接する時間がないと、家族の会話は、表面的なものが多くなるという事である。

Q7とQ10には、 $P < .01$ の有意差が見出された。母親と同じく父親も忙しく、あまり接する時間がないと、家族の会話は、表面的なものが多くなった。

Q7とQ12には、 $P < .01$ の有意差が見出された。父親が忙しく、あまり接する時間がない場合は、子どもと父親の関係は、友達みたいなもので、同等に近い立場のものになるというものである。今日、親の役目をとらず、友達みたいで、それが理解のある父親とみられがちであるが、本当は、子どもと接する時間がなく、子どもをよく理解できない故に、自分の意見を子どもに言えない父親の姿があるのではないかと考えられる。

Q8とQ15には、 $P < .01$ の有意差が見出された。祖父母とあまり接することがなかった子どもの中に、授業が難しく、ついていくのが大変だったと答える者が多かった。

Q9とQ10には、 $P < .01$ の有意差が見出された。子どもが子供部屋などで過ごすことが多い場合、家族の会話は、表面的なものになった。

Q10とQ11には、 $P < .01$ の有意差が見出された。母親との関係が、友達みたいなもので、同等に近い立場の時、家族の会話は、深く突っ込んだものになっていた。

Q10とQ12には、 $P < .01$ の有意差が見出された。父親との関係も、友達みたいなもので、同等に近い立場の時、家族の会話は、深く突っ込んだものになっていた。

Q10とQ14には、 $P < .01$ の有意差が見出された。家族の会話が、深く突っ込んだものになっている場合、学校での活動の結果が、満足なものであったという結果が出た。

Q11とQ17には、 $P < .05$ の有意差が見出された。母親との関係が、友達みたいで、同等に近い立場の場合、仲の良い友達はあまりいず、楽しくなかったという結果であった。

Q13とQ14には、 $P < .01$ の有意差が見出された。学校でやりたい事を、それなりに再議までやり通せた場合、活動の結果に対して、満足なものであった。

Q13とQ16には、 $P < .01$ の有意差が見出された。学校でやりたい事を、それなりに最後までやり通せた者の中に、仲の良い友達が大量いて、楽しかったと感じている者が多かった。

Q14とQ16には、 $P < .01$ の有意差が見出された。学校の活動の結果に満足した者の中に、仲の良い友達が大量いて、楽しかったと感じている者が多かった。

26

Q15とQ16には、 $P < .05$ の有意差が見出された。授業が難しく、ついていくのがなかなか大変であると答えた者の中で、仲の良い友達はあまりいず、楽しくなかったと答える者が多かった。

Q15とQ17には、 $P < .05$ の有意差が見出された。授業が難しく、ついていくのがなかなか大変であると答えた者の中で、おけいこ事や塾などで忙しく、十分遊ぶ時間がとれず、もっと遊べたらなあと思っている者が多かった。この結果から、考えられることとして、授業に

ついていくのが大変で、塾などに通わせている為、遊ぶ時間がないという面もあろうが、一方、学校でも塾でも、授業についていくのが大変であり、2カ所行くことが、かえって消化不良を起こし、授業についていけないという実態があるのではないかとも思われる。以上、養育環境項目間の関係をみてきた。

おわりに

女子学生の心理的危機をもたらす要因として、前回(2000年)の報告で述べた、小学生時代の、自己充実感、自己達成感などを中心に、再度詳しく調べた。その結果、前回の報告結果が再確認された上に、両親との接触時間の不足や、家族の会話が表面的など、家庭での親子関係の希薄さなども、心理的危機要因の1つとして浮かび上がってきた。

今日、青年期の殺人を中心と犯罪が、マスコミで大きく取り上げられ、学校、警察などその対応に追われているが、なかなか決め手となるものは見つからない様である。だが一般的に言われている方策は、もう少し子どもに厳しく当たるというものである。今回の研究対象が女子学生というもので、マスコミで扱う殺人など直接的攻撃行動をとる事は少ないであろうが、青年期の心理的危機という事では同じ面を持っている。この心理的危機の発生要因として、もう十分に記憶が残っている、小学生時代の、親子関係の希薄さや、自己充実感や自己達成感の無さ、などがここに明らかになった。この事を養育する大人にとって十分注意する必要があるし、犯罪予防の対策として考慮する必要がある。だが、残念な事に、これら発生要因を、現代の日本社会は、時代の流れとして益々取り入れようとしているという事実がある。小学生時代の質問項目は、現代的傾向といわれる生活様式からとったものである。この様な流れに歯止めをかけない以上、青年期の心理的危機は無くならないだろうし、マスコミで取り上げる殺人などの犯罪は益々増加するだろうと危惧されるのである。なお、質問項目設定に当たり荒井迪夫氏に協力を得た事をここに記す。

まとめ

青年期の女子学生の心理的危機と、前回の報告で明らかとなった、小学生時代の自己充実感、自己達成感の有無など、養育環境の関係を明らかにする為、本学短大生353名を対象にアンケート調査を実施した。ここで取り上げた、心理的危機は、他者への不信感・自己への不信感・決断力のなさなどの自我同一性の拡散・臨床場面でみられる不適応状態などを、下位項目としたものである。そして χ^2 検定を使い、関係をみたところ、以下の様な事が明らかになった。

1. 本学生コース別で、単純集計結果をみると、学校生活での自己充実感、自己達成感の項目において、また、青年期の心理的危機では、他者への信頼の項目において、食物コースと、児福・社福コースの間に差がみられた。
2. 小学生時代の養育環境として、家庭生活をみていくと、両親がいそがしく、子どもと接する時間が少なく、子どもは自分専用の部屋ですごす事が多く、家族の会話も表面的なものが多く、母親が子どもと友達みたいな、同等な立場で接する、など子どもと親との関係が希薄と考えられる場合に、青年期に、心理的危機状態を呈する事が明らかになっ

た。

3. 小学生時代の養育環境として、学校生活をみていくと、やりたい事を最後までやり通せず、学校での活動結果に不満で、授業になかなかついて行けず、仲の良い友達はそう多くなく、おけいこ事や塾など忙しく、もっと遊びたいと思っているなど、自己充実感や自己達成感などを獲得出来なかった場合に、青年期に、心理的危機状態を呈する事が明らかになった。
4. 乳幼児期の身体的健康や養育と、女子学生の心理的危機の関係は、非常に厳しいしつけや、非常に緩やかなしつけ、には少し関係が見出せたが、全体として、さほどの関係はなかった。
5. 養育環境項目間で、多くの関係が見出された。

参考文献

1. 萩原英敏著「児童の精神・心理の病と、その背景 その2 登校拒否と、その原因」淑徳短期大学研究紀要第36号 1997年
2. 萩原英敏著「女子学生の心理的危機と、それをもたらした養育環境について、その1 女子学生の心理的危機と、養育環境の実態」淑徳短期大学研究紀要第38号 1999年
3. 萩原英敏著「女子学生の心理的危機と、それをもたらした養育環境について、その2 女子学生の心理的危機と養育環境の関係」淑徳短期大学研究紀要第39号 2000年
4. 長尾博著「青年期の自我発達上の危機状態尺度の作成の試み」教育心理学研究 37 1989年
5. 天貝由美子著「高校生の自我同一性に及ぼす信頼感の影響」教育心理学研究43 1995年
6. Bolognini, M., Bettschart, W., Planchere, B., & Rossier, L. 「From the child to the young adult : Sex differences in the antecedents of psychological problems」 Social Psychiatry & Psychiatric Epidemiology 24 1989年
7. 汐見稔幸著「親子ストレスー少子社会の育ちと育てを考える」平凡社 2000年

付表

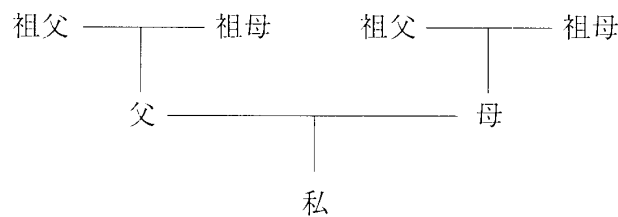
メンタル アセスメントと、生活

○以下の質問は、あなたの幼い時からのものです。記憶をたどりながら、該当するものに丸をつけて下さい。(親から聞いた事でも構いません)

- 28
1. あなたは、生まれてから4歳までに、次のいずれかの病気または症状がありましたか？
 - 1.未熟児または発育不全
 - 2.アトピー性皮膚炎
 - 3.喘息または気管支炎
 - 4.自家中毒
 - 5.股関節脱臼
 2. あなたは、生まれてから4歳までに、次のようなことがありましたか？
 - 1.叩かれたかまたは他の暴力をうけた
 - 2.玄関やベランダ等、家の外に出された
 - 3.押入れ、物置等に入れられた

4. 他苦痛に思うことがあった(具体的に)
3. あなたのこれまでの家庭のしつけは、どのようなものでしたか?
1. 非常にきびしかった 2. やや厳しかった 3. 普通
4. やや緩やかだった 5. 非常に緩やかだった
4. あなたのこれまでの家庭のしつけは、主に誰が行いましたか?
1. 母 2. 父 3. 祖母 4. 祖父 5. その他()
5. あなたの生まれてから4歳までの、同居家族について、該当する家族を○で囲んで下さい。また、兄弟姉妹については、年齢差も記入して下さい。

* 祖父母および父母



* 兄弟姉妹

兄・姉——兄・姉——私——弟・妹——弟・妹
年齢差 () () () ()

○以下の質問は、あなたの小学生の時のものです。記憶をたどりながら、該当するものに丸を1つつけて下さい。

<家庭での生活>

6. 母親は何かと忙しく、あまり接する時間がなかったですか?
1. はい 2. いいえ 3. どちらとも言えない
7. 父親は何かと忙しく、あまり接する時間がなかったですか?
1. はい 2. いいえ 3. どちらとも言えない
8. 祖父母は、いようがいまいが、あまり接することがなかったですか?
1. はい 2. いいえ 3. どちらとも言えない
9. 大きくなるにつれ、子供部屋など自分専用の部屋ですごすことが多く、親とはあまり顔を会わせることがなかったですか?
1. はい 2. いいえ 3. どちらとも言えない
10. 家族の会話は表面的のものが多く、深く突っ込んだものは、少なかったですか?
1. はい 2. いいえ 3. どちらとも言えない
11. 母親との関係は、友達みたいなもので、同等に近い立場のものでしたか?
1. はい 2. いいえ 3. どちらとも言えない
12. 父親との関係は、友達みたいなもので、同等に近い立場のものでしたか?
1. はい 2. いいえ 3. どちらとも言えない

<学校での生活>

13. やりたい事は、それなりに最後までやり通せましたか?
1. はい 2. いいえ 3. どちらとも言えない
14. 学校での色々な活動の結果に対して、自分では満足なものでしたか?
1. はい 2. いいえ 3. どちらとも言えない

15. 授業が難しく、ついていくのがなかなか大変でしたか？
1. はい 2. いいえ 3. どちらとも言えない
16. 仲の良い友達が大量いて、結構楽しかったですか？
1. はい 2. いいえ 3. どちらとも言えない
17. おけいこ事や塾などで忙しく、十分遊ぶ時間がとれず、もっと遊べたらいいのになあと、思ったことがありますか？
1. はい 2. いいえ 3. どちらとも言えない

○以下からの質問は、あなたの現在の状態や考えを尋ねたものです。該当するものに丸を1つつけて下さい。

18. あなたは、元気で、身体の何処も痛む事はありませんか？
1. はい 2. いいえ 3. どちらとも言えない
19. あなたは、すぐ感情を傷つけられやすいですか？
1. はい 2. いいえ 3. どちらとも言えない
20. あなたは、食欲があり、何を食べてもおいしく感じますか？
1. はい 2. いいえ 3. どちらとも言えない
21. あなたは、何かにつけ、よく心配する方ですか？
1. はい 2. いいえ 3. どちらとも言えない
22. あなたは、怖い夢で目をさます事がありますか？
1. はい 2. いいえ 3. どちらとも言えない
23. あなたは、学校生活が楽しく、結構毎日元気で、登校していますか？
1. はい 2. いいえ 3. どちらとも言えない
24. あなたは、外で人から見られると、気になる方ですか？
1. はい 2. いいえ 3. どちらとも言えない
25. あなたは、他人から、仲間外れにされていると、感じる事がありますか？
1. はい 2. いいえ 3. どちらとも言えない
26. あなたは、将来は、どの様な職業にもつけそうという、強い自信を、持っていますか？
1. はい 2. いいえ 3. どちらとも言えない
27. あなたは、今、何かからも拘束されずに、自由であると、感じる事がありますか？
1. はい 2. いいえ 3. どちらとも言えない
28. あなたは、今、理想の自分が沢山あって、どれが本当になりたい自分なのか、さっぱりわからない状態ですか？
1. はい 2. いいえ 3. どちらとも言えない
29. あなたは、他人といっしょにいて、たまたま自分が嫌になる事がありますか？
1. はい 2. いいえ 3. どちらとも言えない
30. あなたは、一般的に、人間は信頼できるものだと、思いますか？
1. はい 2. いいえ 3. どちらとも言えない
31. あなたは、自分の事は自分でしっかり守っていないと、壊れそうな気がしますか？
1. はい 2. いいえ 3. どちらとも言えない
32. あなたは、今は何でも話せても、他人は所詮全く当てにならないものであると、思いますか？

- 1.はい 2.いいえ 3.どちらとも言えない
33. あなたは、これまで出会った人は、よくしてくれたと、思いますか？
1.はい 2.いいえ 3.どちらとも言えない
34. あなたは、現在、信頼できる特定のひとがいますか？
1.はい 2.いいえ 3.どちらとも言えない
35. あなたは、なぜか他人にたいして、うたがい深くなっていますか？
1.はい 2.いいえ 3.どちらとも言えない
36. あなたは、相手が自分を大切にしてくれるのは、そうする事が相手にとって利益があるからだ、と思いますか？
1.はい 2.いいえ 3.どちらとも言えない
37. あなたは、周りのほとんどのひとは、私を信頼しているだろうと、思いますか？
1.はい 2.いいえ 3.どちらとも言えない
38. あなたは、無理をしなくても、この先の人生でも、信頼できるひとに出会えるだろうと、思いますか？
1.はい 2.いいえ 3.どちらとも言えない
39. あなたは、過去に、誰かに裏切られたり、だまされたりで、他人を信じる事が、怖くなっていますか？
1.はい 2.いいえ 3.どちらとも言えない
40. あなたは、自分の人生に対して、何とかやっていけそうな気がしていますか？
1.はい 2.いいえ 3.どちらとも言えない
41. あなたは、自分自身を信頼に値する人間だと、思いますか？
1.はい 2.いいえ 3.どちらとも言えない
42. あなたは、自分自身の行動を、ある程度はコントロールできると、確信できますか？
1.はい 2.いいえ 3.どちらとも言えない
43. あなたは、今は実現していなくても、いつかは実現するだろうと、信じる事が多いですか？
1.はい 2.いいえ 3.どちらとも言えない
44. あなたは、自分は自分で、決して他人にとって、代わることの出来ない存在であると、おもいますか？
1.はい 2.いいえ 3.どちらとも言えない